

研究成果情報

令和元年度

紫黒色の着色が良好で極大粒のぶどう新品種「グロースクローネ」の特徴		
[要約] ぶどう新品種「グロースクローネ」は着色が良好で、果粒も平均で 14g 以上となる4倍体の極大粒品種である。糖度は 19%以上あり「巨峰」、「ピオーネ」並みで、食味は良好である。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

ぶどうの品種構成は「巨峰」中心から無核栽培を主流とした「シャインマスカット」などの新しい品種の登場により多様化が進んでいる。また、温暖化により着色不良が問題となっている「巨峰」に比べ着色が良好な紫黒色系新品種の特徴を把握することにより、ぶどう生産の活性化を図る。

[内容]

1 果実特性

- (1) 果粒は平均 14g 以上、20g を超える場合もある4倍体の極大粒種で、糖度は 19.3%と「巨峰」、「ピオーネ」並みとなり食味は良好である(表1)。皮ごとの食用には向かないが、はく皮性は巨峰と同等である(表2)。
- (2) 「巨峰」、「ピオーネ」よりカラーチャート値が高く着色良好で、果粉着生も多く高級感ある外観に仕上がる(表1、図)。

2 栽培特性

- (1) 無加温ハウス栽培での発芽期は「巨峰」よりやや遅いが、開花期は「巨峰」とほぼ同じである。収穫期は「ピオーネ」とほぼ同じで「巨峰」よりやや遅い(表3)。
- (2) 4倍体品種であるため樹勢は「巨峰」並に強いが、発芽や着穂が安定しており、短梢せん定無核栽培が前提の品種である(表2)。

3 来歴

本品種は国立研究開発法人・農研機構果樹・茶業研究部門で育成され、交配親は「藤稔」×「安芸クイーン」で系統適応性検定試験の系統名は「安芸津 30 号」である。

[導入効果]

「巨峰」「ピオーネ」より着色性に優れるため、今後想定される温暖化に対応できる品種である。

[導入対象]

ぶどう生産者及び新規果樹導入に取り組む生産者

[留意点]

- 1 開花前に蕾ぶるいする場合があります。着粒安定のために満開～満開 3 日後に処理する1回目のジベレリン処理へホルクロルフェニユロン液剤を農薬登録に従い加用する。
- 2 本品種は、平成 29 年 10 月 20 日に品種登録出願公表(品種登録出願番号:第 32149 号)された。苗木は、平成 30 年秋から販売されている。
- 3 本試験で用いた「グロースクローネ」は無加温ハウス栽培で樹形は短梢せん定一文字整枝である。無核処理は満開時～満開 3 日後にジベレリン 25ppm にホルクロルフェニユロン液剤5ppm を加用し1回目の処理、満開 10～15 日後にジベレリン 25ppm 単用で 2 回目の処理を実施した。

[具体的データ]

表1 「グロースクローネ」の果実品質データ

品種	果房重 (g)	軸長 (cm)	段数	着粒数	脱粒数	1粒重 (g)	着色 (カラー チャート値)	糖度 (Brix%)	酒石酸 含量(%)
グロースクローネ	409.1	10.4	13.7	29.8	1.8	14.1	9.5	19.3	0.44
ピオーネ	471.6	9.8	14.5	36.8	0.0	12.7	8.5	19.4	0.42
巨峰	404.6	10.1	15.3	33.0	0.3	12.0	8.1	19.5	0.55

注 3月下旬被覆の無加温ハウス、樹齢6～9年生(H26～H29)短梢せん定樹での栽培データ
無核処理は満開時～満開3日後にジベレリン25ppmにホルクロールフェニユロン液剤5ppmを
加用し1回目の処理、満開10～15日後にジベレリン25ppm単用で2回目の処理を実施

表2 「グロースクローネ」の果実特性

品種名	果房形	果粒形	果皮色	はく皮	果肉 特性	果肉 硬度	香気	渋み	裂果性
グロースクローネ	円筒	短楕円	紫黒	中	中間	や軟	フォクシー	無	無
ピオーネ	円筒	短楕円	紫黒	中	中間	中	フォクシー	無	極少
巨峰	円筒	短楕円	紫黒	中	中間	中	フォクシー	無	無

注 表1と同一条件

表3 「グロースクローネ」の生態データ

品種	発芽日	展葉日	開花期			収穫期		
			始	盛	終	始	盛	終
グロースクローネ	4/18	4/21	5/19	5/23	5/26	8/23	8/29	9/2
ピオーネ	4/12	4/18	5/21	5/24	5/27	8/25	8/31	9/4
巨峰	4/11	4/16	5/19	5/22	5/25	8/17	8/25	8/29

注 表1と同一条件



図 「グロースクローネ」の外観(農研機構提供)

[その他]

研究課題名:1 新潟産果実のブランド力向上と新展開に向けた技術開発

2 新潟産果実のブランド化をけん引する新技術の開発

予算区分: 県単経常

研究期間: 平成26～30年度

発表論文等: なし